

ふれあい

2026

7

No.472

牛久愛和総合病院 広報誌



特任副院長就任にあたって

特任副院長 古謝 宏樹



り、安全性の高い医療機器の導入や高齢化社会に伴う合併症リスクへの対応など、求められる技術と質の向上には終わりがありません。

この度、4月16日付をもちまして特任副院長を拝命いたしました。これまで麻酔科医として30年余り、当院において10数年麻酔科部長として、さらに数年前より手術部部長として「手術室」という現場の最前線で、安全な手術環境の維持と円滑な運営に注力する傍ら研修医指導や救急救命士の気管挿管実習にも従事してまいりました。今後はこれまでの実務経験を活かし、経営的な視点からも当院の発展と地域医療への貢献に尽力してまいります。

麻酔科医の職分は、一言で言えば「患者さんの生命の安全を守ること」です。手術中の全身管理はもちろん、術前からの体調管理、そして術後の痛みへの対応まで、患者さんが安心して治療に臨めるようサポートすることが麻酔科医の本分であります。私は特任副院長という立場においても、この「安全・安心」な医療の提供を最優先する姿勢を忘れることはありません。手術部という多職種が集う組織の運営に携わってきた経験をもとに、院内の各部署がこれまで以上に緊密に連携し、職種の垣根を越えて一つのチームとして機能する組織づくりを推進してまいります。

もまた、効率的かつ質の高い医療を提供し続けるための改革が求められています。限られたリソースの中で、いかにして手術待機期間を短縮し、緊急手術へ迅速に対応できる体制を維持するか、これは経営上の課題であると同時に、地域の皆様の信頼に直結する課題でもあります。現場の声を経営に反映させ、より円滑で持続可能な病院運営の実現を目指してまいります。

私たちが生活するこの地域において、当院が果たすべき役割は極めて多岐にわたります。なかでも地域医療支援病院としての大きな使命は、高度な急性期医療を安定的に提供し続けることです。手術医療はその中核を成すものであ

現在、日本の医療を取り巻く環境は、医師の働き方改革や医療資源の最適化など、大きな転換期にあります。当院

最後にありますが、医療の質を支えるのは「人」に他なりません。職員一人ひとりがプロフェッショナルとしての誇りを持ち、互いに支え合える環境を整えることが、結果として患者さんへのより良いケアにつながると信じております。至らぬ点多々あるかと存じますが、地域の皆様にとって「この病院があつて良かった」と心から思っていただけるよう、全力を尽くしてまいります。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



機能的虚血検査の進化

「FFR-CT導入の意義」

循環器科 医長 園田 健人

心臓の周りを走る「冠動脈」が狭くなる虚血性心疾患（心筋梗塞など）の治療では、狭さの「見た目」だけでなく、実際にどのくらい血流が滞っているかという「機能」を正しく評価することが重要です。

この血流の滞り具合を数値化する指標が「FFR（冠血流予備量比）」です。

従来の心臓カテーテル検査による見た目の狭窄度（狭さ）だけでは、本当にカテーテル治療が必要かどうかの判断が難しい場合があります。そのため、負荷心電図や心エコー、核医学検査など様々な評価法が発展してきましたが、それぞれ一長一短がありました。

そこで、血流の状態を直接判定するために開発されたのが①「Wire FFR」です。心臓カテーテル検査の際、冠動脈内に圧力センサー付きのワイヤーを直接挿入し、狭窄の前後の血圧差を測定します。確実な検査ですが、血管内にワイヤーを入れる「侵襲（身体への負担）」が課題でした。

この課題を克服すべく登場したのが

②「angioidriven FFR」です。カテーテル検査の画像データをコンピュータで高度にシミュレーション解析し、ワイヤーを入れずにFFRを算出します。しかし、これら2つの検査は、いずれも入院を前提とした心臓カテーテル検査が必要であることに変わりはありませんでした。

そこで、さらなる負担軽減を目指して開発され、当院でも新たに導入されたのが③「CT FFR（FFR-CT）」です。これは、外来で実施可能な「冠動脈CT」の画像データをスーパーコンピュータで解析し、カテーテル検査をせずとも高精度なFFRを測定できる画期的な手法です。

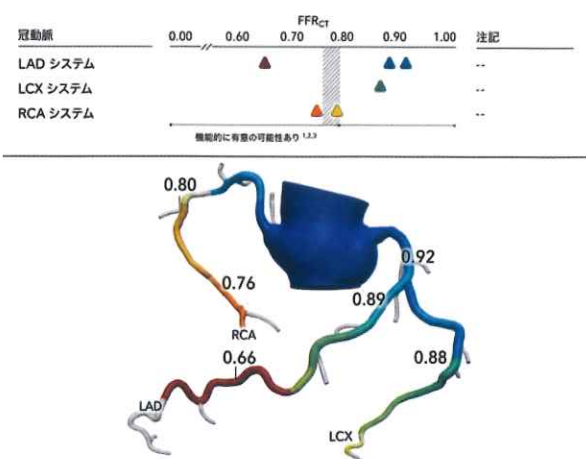
ただし、CT FFRも万能ではありません。すでにステント（金属の筒）が入っている方、血管の石灰化が強い方、心拍数の管理が難しい方などには適さない場合があります。その場合は従来の①や②の検査が優れています。また、データ解析を米国の専門機関へ依頼するため、個人情報保護を匿名化した上での海外

通信が必要になるという留意点もあります。

CT FFRの最大のメリットは、外来のCT検査だけで「本当にカテーテル検査や治療が必要か」を考える一助になることです。

当院は、これら3つのFFR検査すべてに対応できる体制を整えています。患者様の状態に合わせて、最も適切で安全な選択肢をご提案できることが当院の強みです。胸の痛みや違和感などでお困りの際は、どうぞお気軽にご相談ください。

※左記のようなレポートが作成されますので、お渡しします。



Dr 趣味リレー

研修医 高木 菜摘

私の趣味は、全力で体を動かすことと、全力でだらけることです。学生時代からずっと、その極端なバランスで生きています。

バドミントンは大学から始めました。しかし入学直後にコロナ禍となり、部活開始は3年生のときでした。不完全燃焼のまま引退してしまい、今でも週1で大学の部活に顔を出しています。後輩たちと話すのが元気になるので、老害と思いつつも若者のエネルギーを遠慮なく吸い取っています。

ダンスは何かしらずっと触れていて、2歳から大学までクラシックバレエ、jazzダンス、KPOPやgirlsなど様々なジャンルに挑戦しました。今でも踊ることが好きで、家で踊り狂ったり、スタジオ練習に参加したりしています。

一方で、家ではNetflixを見ながらのんびり過ごす時間も大切にしています。大画面で見たく、テレビ購入を検討中なので、沢山働いて自分へのご褒美にします！

春秋園だより

色とりどりの花々が夏の日差しに映える季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。日中は汗ばむ陽気の日も増えてまいりましたが、利用者の皆様は毎日お元気に過ごされております。こまめな水分補給や室温調整を行いながら、皆様が快適に過ごせるよう努めております。

通所では、利用者の皆様が毎日楽しく過ごせるよう、さまざまなレクリエーションを行っております。今回は、制作活動と職員考案のゲームの様子をご紹介します。

制作活動では、折り紙を用いて、春秋園の玄関先でも綺麗に咲いていた紫陽花作りに取り組みました。お花に詳しい利用者様から「紫陽花の花の色は土によって変わるんだよ」と教えていただきました。実際に春秋園の玄関先には青色の紫陽花が綺麗に咲いており、季節の訪れを感じさせてくれます。利用者様には、お好きな色の折り紙を選んで制作していただき青や紫、ピンクなどの色とりどりの紫陽花が完成しました。

また、レクリエーションでは職員

考案の「箱の中身は何だろうな？」ゲームを行いました。箱の中に入っている物を手で触り、その感触だけを頼りに何が入っているかを当てるゲームです。利用者の皆様は「これは何だろう?」「分かったかもしれない!」と真剣な表情で挑戦されていました。正解が発表されると「やっぱりそうだった!」「全然わからなかったよ」と笑い声があがるなど大いに盛り上がりました。利用者様同士の会話も弾み、楽しい交流の機会となりました。

これから本格的な夏を迎え、暑さが厳しくなっております。利用者の皆様が安心して楽しく過ごしていただけるよう、体調管理に十分配慮しながら、季節感を大切にした活動を取り入れてまいります。今後も、利用者様の日々のご様子をお伝えしてまいります。

(通所リハビリスタッフ一同)



部 署 紹 介

経 理 課

経理課 係長 関根 宏樹

「経理課の業務」についてご紹介させていただきます。

経理という数字ばかり扱う単調な仕事をする部署、というイメージを持たれますが、実は皆さんの備品購入や出張で使用した経費の精算、毎月のお給料計算、取引先に対する支払いなど、病院に関わるすべてのお金の管理を担当している、多岐に渡りいろいろな業務を担っている部署になります。また、精算機の釣銭補充、春秋園やひたち野ステーション

ンクリニクの経理も合わせて行っています。

毎日、入出金を記帳すると同時に実際の現金が合っているかを付け合わせ確認していますが、近年では会計システムの入力操作も正確性の観点から大切な業務となっております。

経理課は、あまり接する機会が少ない部署かもしれませんが、経理に関する疑問がありましたら遠慮なくお声がけください。

縁の下の力持ち的な部署として、患者様と間接的に、また現場スタッフが業務に注力できるように陰ながらサポートしてまいりますのでどうぞよろしく願います。

入 職 者

6月1日付

看護部

看護助手 川添 恵子

気配りと丁寧な対応を大切に、一日も早く業務を覚え、貢献できるよう努めて参ります。

6月16日付

医 局

内科 遠藤 理澄

①出身大学

聖マリアンナ医科大学、卒
後宮城県で初期研修1年

東北大学麻酔科に在籍
②現在最も熱中しているもの
(趣味)

断捨離・ミニマリスト

スポーツリラックス

事務 荒川 智子

施設を利用される方に、ほっこりしていただけるような空間づくりに努めます。

医材センター

事務 石塚 千春

任された仕事は責任を持って取り組み最後までやり遂げることを心がけております。

医事情報部

事務 小田 由里枝

出来ることを一つ一つ増やしていきたいです。誠実に業務に取り組んでまいります。

春秋園

ケアサービス部

介護職員

タパ マガル アニタ
人と話すことが好きです。えがおを大切にしています。私は時間の守りを大切にしています。

《出来事ピックアップ》

車椅子シーティング研修会

5/15

5月15日に、地域医療勉強会として「車椅子シーティング研修会」を開催しました。病院の内外から多くの方にお越しいただき、皆さまと一緒に学びを深める大変有意義な時間となりました。

今回は、全国で講演活動されている理学療法士の宇佐見将太先生をお招きし、車椅子について分かりやすくお話しいただきました。宇佐見先生は「車椅子の常識をアップデートしたい」という思いで活動されており、専門的な内容も丁寧に説明してください



研修では、車椅子の基本から最新の工夫まで幅広い内容を学びました。特に印象に残ったのは、「車椅子は誰にとっても身近な道具なのに、意外と知られていないことが多い」というお話です。自分が使う可能性もあれば、大切な家族が使うこともあります。それなのに、まだまだ理解が追いついていない現状に気づかされました。

私たちは医療者も、日々知識を新しくし、患者様により良い選択肢をご提案できるように努めていきたいと思っています。皆さまも、ぜひ一度車椅子の基礎知識に触れてみてください。新しい発見があるかもしれません。

(リハビリセンター 主任 神谷)

編集だより

夏も本番になってきました。この時期は熱中症になる方が大変多くなってきます。

室内にいても対策を怠ると熱中症、脱水症状になってしまいます。エアコンや扇風機での室温管理、こまめな水分補給を心掛けましょう。

(R・M)

病院理念 我々は医療全般は基より、3つの柱「救急医療」「予防医療」「高齢者医療」を通じて地域住民の皆様にも最善の医療・福祉を提供すると共に、職員一同自己研鑽に励みます。

病院概要 病床数 489床 (一般391床 医療療養型55床 地域包括ケア43床)

施設 敷地 59,449.60㎡ 駐車場 1151台



診療科目

【一般外来】

内科、消化器内科、循環器内科、心臓血管外科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、小児科、眼科、泌尿器科、皮膚科、整形外科、脳神経外科、形成外科、救急科、外科、乳腺外科、消化器外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、歯科口腔外科、甲状腺・内分泌外科、血管内治療科

【専門外来】

循環器疾患専門外来、ペースメーカー専門外来、不整脈外来、肝疾患専門外来、糖尿病専門外来、甲状腺専門外来、血液専門外来、ストーマ(人工肛門・人工膀胱)専門外来、リウマチ専門外来、関節専門外来(股・膝)、脊椎外来、足部外来、スポーツ外来、乳腺専門外来、小児神経外来、発達障害(自閉症・学習障害等)専門外来、小児心理外来、小児科免疫外来、小児科循環器外来、口腔機能外来、皮膚科レーザー外来、内視鏡科、心臓血管外科、そけいヘルニア外来、下肢静脈瘤外来、再建外来、女性泌尿器科外来、肥満症外来

臨床研修指定病院／地域医療支援病院
地域災害拠点病院／日本医療機能評価機構認定病院

医療法人社団 常仁会

救急 24時間

牛久愛和総合病院

〒300-1296 茨城県牛久市猪子町896番地
Tel 029-873-3111 Fax 029-874-1031
ホームページ <http://www.jojinkai.com>

《関連施設》

総合健診センター	Tel 029-873-4334
健康増進施設 スポーツリラックス	Tel 029-874-8791
人工透析センター	
読影センター	
地域リハ・ステーション	
介護老人保健施設 春秋園	Tel 029-870-3100
ひたち野ステーションクリニック	Tel 029-896-6200
特別養護老人ホーム グランヴィラ牛久	Tel 029-817-5111

